

## 2011 年度第 2 回 FD研究会の開催報告

全国の大学で「学生参画型 FD」の展開が活発である。それは、学生を学びの主体者という立場で FD 活動に参画させ、学生と教職員がともに議論しながら協働でより良い授業（学びの場）を創り上げるような取組である。では、本学の「学生参画型 FD」とはどうあるべきか？

これを考えるにあたり、まずは本学で既に成果を上げている学生参画型事業の現状について認識を深めることが必要と考え、各組織で活動する学生からの報告を受けた。また、全国的にも先駆的な取組として評価が高い札幌大学の「札大おこし隊」の取組に学んだ。その上で、参加した学生と教職員が「学生参画型 FD」のあるべき姿や運用面での課題について討議を行った。

### 【概要】

テーマ：「学生参画型 FD」について考える

日時：2012 年 3 月 7 日（水）13:30～16:00

対象：本学の学生、教職員ならびに非常勤講師

流れ：学生参画型事業の活動報告

4つの組織の活動について、その使命や役割、活動内容と評価、今後の課題といった観点から各組織に所属する学生が発表

<1> パソコンサポートデスク（電子計算機センター）

<2> 学生広報チーム（広報室）

<3> オープンキャンパススタッフ（広報入試）

<4> バリアフリー委員会

情勢研究

札幌大学における学生 FD の取り組みについて

札幌大学 FD 推進委員会委員長・法学部教授 梶浦 桂司氏

フリーディスカッション



### 【成果】

学生 11 名、教職員 21 名が参加し、「学生参画型 FD」というものについて多様な観点から意見を出し合った。2012 年度も引き続き、学生と教職員の対話の場を用意し、あるべき姿を明らかにする取組を進めたい。

#### 参加者アンケートから抜粋

- ✓ 学生 FD 委員会の設立は、本学にとって有意義な方向性だと思う。その上で、運営に参加する学生の教育（授業案の出し方など）を、教員教育と並行していくべき。（教員）
- ✓ 本学の 4 つの学生参加型事業が“FD”にどのように関わっているのかがよくわからなかった。これら以外のものも含めて“組織”化していくことが課題であると感じた。とはいえ、何に向けての FD なのか？その点はよりつめて考える必要がある。学生が主体的に関わっている事業を大学の FD に組み込んでしまうということが妥当か？自由にやらせてあげればよいようにとも思う。（教員）
- ✓ 札幌大学の「学生発案型授業」は本学でも実現を望んでいるもの。但し、新たな科目を造るというよりも、現在のカリキュラムの枠組（既存科目）の中でそれを行えないかと考えている。（教員）
- ✓ 「学生参加型 FD」を効果的に行う条件（の一つ）に、「教員が学生の声に耳を傾ける姿勢を明確にアピールする」ことが挙げられよう。（教員）
- ✓ FD の定義として単に「授業改善」のためではなく、協同の「大学づくり」と位置づけた札幌大学に、本学は見習うべき。（教員）
- ✓ 学生 FD 活動は教育改善のルネサンス運動のような印象を持った。教えたい人と学びたい人が身分にかかわらず作ったコミュニティが大学とすれば、本来の姿に戻そうとする復興運動がこの FD 活動ではないかと思ったから。（職員）
- ✓ 学生参画型 FD はとても良いと思う。教員が一方的に話すのではなく、学生の意見を取り入れることで、学生に関心を持たすことができると思う。（学生）
- ✓ 現在、各団体が個々で活動している状態なので、協働できる場所、協力しあえるところは、手を取り合って活動していけたらいいと思った。各団体の力が集まるだけでなく、ノウハウの共有、社会性の構築が可能になると思う。（学生）
- ✓ 新しい企画を実行に移すには大変な時間と労力が必要だと改めて感じた。また、一から企画し立ち上げていくことの面白味も感じた。（学生）